

改めてビジョン策定の前提

- ✓ ①ビジョンの到達目標(使命・戦略)は、高知県や県民・利用者が「どのような状態になるか？」である
- ✓ ②行政の役割は、その状態をつくるためには「何をするか」(＝戦略)である
- ビジョンにおける「基本理念」や「基本方針」は①、「柱」、「施策」や「具体的取組」は②
- 評価は、①をアウトカム(定性的)、②をアウトプット(定量的)として評価(事実特定＋判断)する

高知県文化芸術振興ビジョンのロジックモデル

事務局
第2回

基本理念

文化芸術の力で
心豊かに暮らせる高知県

基本方針

文化芸術を身近に
感じることができる
環境の充実

- (1)多様な文化芸術に触れることができる機会の提供
- (2)文化芸術活動への支援
- (3)文化施設をハブとした取組の推進
- (4)誰もが生涯にわたり楽しむことのできる環境づくり

文化芸術を
「支えるひと」を育む

- (1)将来の文化芸術を支えるひとの育成
- (2)文化芸術を活用した地域を支える人材の育成

文化芸術を活用した
地域振興

- (1)地域特有の文化の保存・継承・活用
- (2)観光や産業等の振興につながる文化芸術の活用

県立文化施設の
果たすべき役割

- ・ 具体的にどのような状態になることか、また、何を指標に達成度を図るのか疑問
- ・ 身近に感じ、担い手が育ち、地域魅力が向上すれば「心豊かに暮らせる」のか？

- ・ 身近に感じ、担い手が育ち、地域魅力が向上→
- ・ 県民や来訪者の文化芸術に対する関心・期待が高まる→
- ・ 文化芸術の力で、魅力と活力にあふれる高知県

高知県文化芸術振興ビジョンのロジックモデル

高代 井案

基本理念

文化芸術の力で
心豊かに暮らせる高知県

主語(主体)は県民や
利用者であり、県
(行政側)ではない

「ひと」だけではなく、
地域・団体・コミュニティを含める

「振興」は具体性に
欠ける、何を振興する
のか？

基本方針

文化芸術を身近に
感じることができる
環境の充実

- (1)多様な文化芸術に触れることができる機会の提供充実
- (2)文化芸術活動の発表や鑑賞機会への支援
- (3)文化施設をハブとした取組の推進
- (4)誰もが生涯にわたり楽しむことのできる環境づくり

文化芸術を「支える
ひと」の担い手が育つ

- (1)将来の文化芸術を支えるひとの育成
- (2)ひとの交流を通じたコミュニティの形成
- (3)地域をあげた文化資源の保存・継承・活用

文化芸術を活用した
地域振興魅力の向上

- (1)地域特有の文化資源の発見と磨き上げ
- (2)地域特有の文化の保存・継承・活用芸術情報を積極的発信
- (3)文化芸術を活用した観光や産業等の振興につながる

県立文化施設の
果たすべき役割

「地域魅力の向上」は、
①資源魅力の発見→
②その良さの発信→
③他業種への貢献

「支援」は抽象的で
何に対してか不明